

徳島大学創立70周年記念事業のお知らせ

昭和24年（1949年）に創立した徳島大学は、今年、創立70周年を迎えます。記念講演会・記念式典・祝賀会が11月3日（日・祝日）にJR ホテルクレメント徳島で開催されます（徳島大学 HP 参照）。記念事業の一環として**11月2日（土）**に下記の要領で**ホームカミングデー**を行います。皆様のご参加をお待ちしています。

11：00～12：15（受付10：30～）オープニングセレモニー・記念講演会（要事前申込み、下記 URL 等）

場所：徳島大学長井記念ホール 蔵本キャンパス内

申込方法等、詳細は徳島大学創立70周年記念事業特別サイトをご覧ください。

(https://www.tokushima-u.ac.jp/about/anniversary_70th/memorial_ceremony/)



12：50～15：15 Home Coming Day（要事前申込み）

場所：工業会館 2F メモリアルホール 常三島キャンパス内

1）会食・懇話会 **会費無料** 2）挨拶〔名誉会長・名誉副会長・理事長〕 3）写真撮影

4）理工学部・生物資源産業学部各研究室・実験施設等見学 見学所要時間：1 時間

〔コース1〕社会基盤デザインコース・応用理数コース

〔コース2〕機械科学コース

〔コース3〕応用化学システムコース・生物資源産業学部

〔コース4〕電気電子システムコース・情報光システムコース

申込方法：会報折込ハガキにて令和元年10月21日（月）迄に申込みください。施設見学は、事前申込みされた4コースに分かれて行きます。

15：30～16：30 記念講演会 ～徳島経済同友会・理工学部・工業会共催～（当日参加可）

場所：理工学部共通講義棟 K206室 常三島キャンパス内

講師 石原俊輔氏（四国経済連合会 特任理事）

演題 新幹線で四国を変えよう！

工業会キャッチフレーズが決定しました！

「つないで100年工業会」より多くの会員の皆様が、より楽しく会活動に参加していただくために、活動への興味、関心を喚起するキャッチフレーズ募集に多数応募いただいた作品の中から、池田貴彦様（知情 H 4 年卒）の作品を採用させていただきました。工業会報を郵送した封筒や右の写真の工業会旗（幅1.5m 高さ1m）等、工業会のシンボルマーク（英語表記：Tokushima Technical Association 略称 T.T.A.）とともに幅広く使用しています。



撮影：納田盛資（土木52）

＜表紙解説＞2015年の春、徳島県鳴門市のれんこん田に2羽のクノトリが飛来し、ペアが形成され、大麻町の電柱で巣づくりが始まりました。けれど、雌が若いためか卵は産みませんでした。翌年の2月、同じ場所で巣づくりが行われ、産卵や抱卵が見られ、雛誕生が期待されました。しかし抱卵の途中、雄と雌が巣を離れた隙にカラスが卵を襲いました。その後雄と雌が別々に行動したため、ペア解消かと心配されましたが、秋には一緒に餌をとる姿が確認され、2017年の1月に3回目の巣づくりが行われました。そしてついに誕生したのが表紙の3羽の雛で、雄の“れん”と“なる”，雌の“あさ”です。クノトリは1970年代に国内で野生絶滅した大型水鳥で、その野生にもどす手続き（野生復帰）が兵庫県豊岡市で進められています。そして、豊岡市を含む但馬地域以外で、クノトリの繁殖が確認された第1号が徳島県の鳴門市で、“クノトリに選ばれたまち”として全国から注目されました。

なぜ、クノトリが鳴門に飛来したのか、それは吉野川の旧川にそって広がるれんこん田（湿地的環境）があるからです。鳴門のれんこん田は農薬の使用量が少なく、水路にはナマズやドジョウ、フナなどの魚類、そして畦にはバッタやヘビ、畦際に穴をあけるアメリカザリガニが数多く生息しています。私の研究室の調査から、鳴門は豊岡と比較して十分な餌環境だと分かりました。クノトリの餌生物調査、雛への足環装着と雌雄の判別、クノトリ親子観察会など、クノトリが定着するためのサポートをクノトリ定着推進連絡協議会と協力して進めています。今年で3年連続となる雛の巣立ちに成功し、今後はもう1ペアの誕生と、「クノトリおもてなしれんこん」の販売促進、クノトリと共生できる地域づくりを目指していきます。

文責：河口洋一 社会基盤デザインコース准教授＜表紙写真は、浅野由美子さんにご提供いただきました。＞